

# 第79期事業報告及び計算書類報告の件

2024年6月26日

代表取締役社長  
西田憲司

- ・ 当社は2023年6月14日に液化石油ガス容器用バルブの販売業務について、独占禁止法（不当な取引制限の禁止）違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立入検査を受けました。この事実を真摯に受け止め、公正取引委員会に全面的に協力しております。
- ・ また、再発防止の決意と防止策を以下のように表明しております。

2024年4月15日

## 独占禁止法遵守の社長宣言

株式会社宮入バルブ製作所は、独占禁止法をよく理解し、禁止されている一切の行為を行わず、すべての事業活動において公正で透明性のある競争と取引を行うことを宣言します。

以上

## 独占禁止法遵守のための行動指針

### 1. 独占禁止法の趣旨と遵守の誓約

独占禁止法の目的は、公正かつ自由な競争を促進し、事業者が自主的な判断で自由に活動できるようにすることであり、市場メカニズムを正しく機能させることで、事業者間の競争によって消費者の利益を確保しようとするものです。

この趣旨を正しく理解したうえで、当社の全役職員は、本行動指針に則って独占禁止法を遵守することを誓います。

### 2. 独占禁止法遵守のための行動指針

#### (1) 不当な取引制限の禁止、不公正な取引方法の禁止の遵守

会社は販売価格や仕入れ価格、それらの数量、その他の取引条件について、公正かつ自由な競争を阻害する行為を完全に排除します。全役職員は他の事業者の役職員とこれらの情報を交換することを禁止します。

#### (2) 私的独占の禁止、企業結合の規制の遵守

会社は上記(1)に加えて、独占禁止法で禁止や規制を受けている事柄について、法律を完全に遵守する企業活動を行います。

#### (3) 教育プログラムの設置

会社は全役職員が独占禁止法を正しく理解するために必要な教育プログラムを継続的に提供し、全役職員はこの教育プログラムに積極的に参加します。

#### (4) 内部通報制度の運用

本行動指針に反する行為や事象を発見した役職員は、内部通報制度運用規程に則り、内部統制監査室長、常勤監査役、または外部弁護士事務所に通報する義務があります。この場合、会社は内部通報者への不利益な取り扱いはしません。

#### (5) 定期的な監査の実施

内部統制監査において、本行動指針の遵守状況を監査し、取締役会に報告することとします。

#### (6) 違反行為に対する責任

全役職員は本行動指針に反する行為を行った場合には、会社の賞罰規程に則り、厳正に懲罰されます。

以上

# 1. 第79期決算トピックス

## 【売上高は2.7%の減収】 … 売上高6,157百万円

- ・ 製品・商品はほぼ横ばい(前期比+0.1%)、切削屑は177百万円の減収(前期比▲16.8%)。
- ・ 黄銅弁は0.1%の減収: [増収] LPガス容器用弁、バルク附属機器 [減収] 設備用
- ・ 鉄鋼弁は0.7%の増収: [増収] 設備用、車載用、バルク附属機器、低温弁 [減収] 船舶用

## 【営業利益は20.4%減益】 … 営業利益210百万円

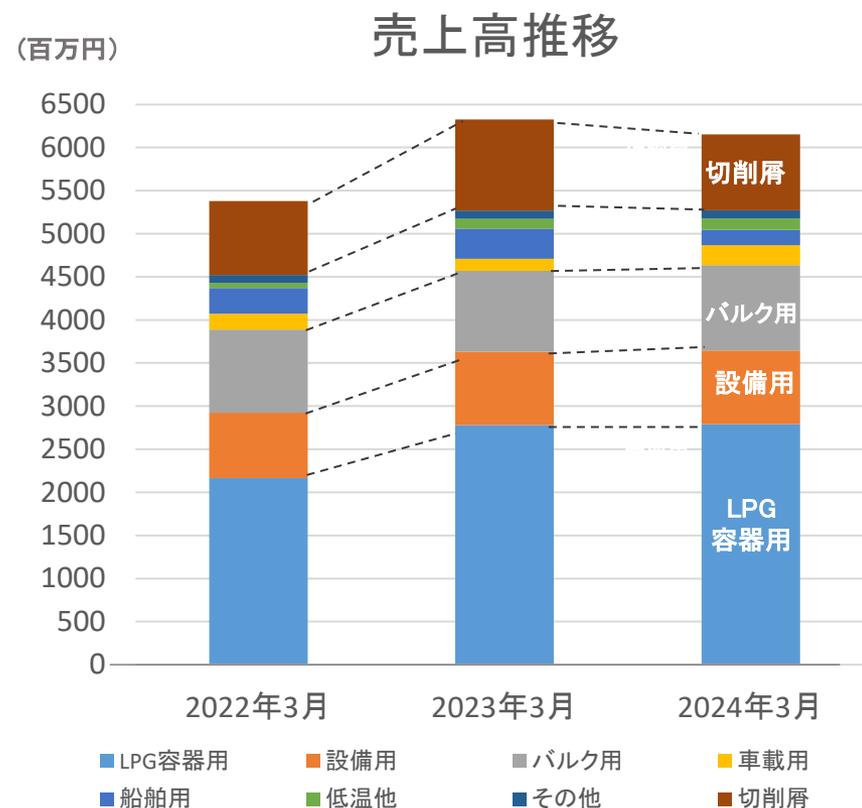
- ・ 概況:
  - － 黄銅材価格が1kg1千円以上という歴史的な水準で高止まりを続けたこと、および、収益の柱であるLPガス容器弁の需要サイクルのボトムにあたり販売数量が落ち込んだことが収益圧迫要因となりましたが、全社的に生産性向上に努めた結果、黒字決算を維持することができました。
- ・ 今後の見通し:
  - － 売上高は、LPG容器用弁と低温弁(液体水素、LNG、液体窒素、アンモニア)が堅調に増加する見込みですが、全体としては、ほぼ横ばいになります。
  - － 第80期は期初より黄銅材価格がさらに急騰し始めましたので、収益的に厳しい状況が続くと思われます。  
一層の生産性向上、および経費削減に努めながら収益確保を目指します。

## 【期末配当】

- ・ 第79期の期末配当(1株につき2円)を本総会の第1号議案として上程させていただきます。

## 2. 売上高

単位：百万円		2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	24-23年 増減
黄銅弁	LPG容器用弁	2,165	2,779	2,791	12
	設備用	305	320	290	▲30
	バルク付属機器	644	628	642	14
	その他	0	0	0	0
	小計	3,115	3,728	3,724	▲4
鉄鋼弁	設備用	453	531	565	33
	車載用	183	140	231	91
	船舶用	298	350	175	▲175
	バルク付属機器	322	311	349	37
	その他	58	113	135	22
	小計	1,316	1,448	1,458	10
その他	93	96	94	▲2	
切削屑	860	1,057	880	▲177	
合計	5,386	6,331	6,157	▲173	



### 【第80期売上見込み】

- ・LPG容器用弁： 増加（数量増）
- ・バルク付属機器： 減少（交換需要ピークアウト）
- ・車載用： 横ばい（生産台数横ばい）
- ・船舶用： 減少（建造案件減少）
- ・その他（鉄鋼弁）： 増加（低温弁増加）

### 3. 収益状況

単位：百万円	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	24-23年 増減
売上高	5,386	6,331	6,157	▲173
(うち切削屑)	(860)	(1,057)	(880)	▲177
売上原価	4,542	5,144	4,968	▲176
売上総利益	844	1,187	1,189	2
販管費	772	922	978	56
営業利益	72	265	211	▲54
営業外損益 NET	▲14	▲7	▲2	5
経常利益	58	258	209	▲49
特別損益 NET	▲5	1	0	▲1
税引前利益	53	259	209	▲50
法人税等	13	26	32	6
当期純利益	40	233	177	▲56

#### 【売上高総利益率】

2022年3月	15.7%
2023年3月	18.7%
2024年3月	19.3%

#### 【売上高営業利益率】

2022年3月	1.3%
2023年3月	4.2%
2024年3月	3.4%

#### 【2024年3月期】

- 黄銅材価格の高止まり、運賃その他経費の上昇によって収益が弱含みましたが、全社的な生産性向上と経費削減によって黒字決算を維持することができました。

#### 【事業ポートフォリオの再構築】

- 今後も全社的に生産性向上、経費削減に取り組めますが、既存の事業だけでは持続的な業容拡大、収益改善が困難と判断しており、事業ポートフォリオの再構築に取り組んでいます。

- ・ 食品加工分野での製品開発
- ・ 低温弁の品揃え強化、原価低減
- ・ 産業ガス設備用バルブの開発
- ・ 業務提携による産業ガス容器用バルブの開発
- ・ LPG製品等の現地OEMによる中国市場進出

# 4. 財務状況

単位：百万円	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	24-23年 増減
流動資産	3,538	3,406	3,522	116
うち現預金	281	377	481	104
うち受手・売掛金	1,390	1,249	1,280	31
うち商品・製品	1,228	1,143	1,135	▲8
うち原材料	603	615	602	▲13
固定資産	4,637	4,734	5,123	389
資産合計	8,175	8,140	8,645	505
流動負債	2,389	2,270	2,717	447
うち支手・買掛金	609	626	679	53
うち借入金	1,419	1,101	1,339	238
うち未払金	139	127	224	97
固定負債	1,905	1,789	1,750	▲39
うち借入金	641	473	331	▲142
純資産	3,881	4,081	4,178	97
うち利益剰余金	235	420	501	81
負債純資産合計	8,175	8,140	8,645	505

## 【トピックス】

① 商品・製品在庫  
 商品・製品の在庫回転期間が2.6ヵ月で前期と変わらず、適切な在庫水準を維持しています。

② 固定資産  
 主な設備投資は次の通りです。

・鍛造設備更新	107百万円
・製造基幹システム	70
・排水処理施設、醸造所	81
・機械、工具、受電設備等	93
合計	351

③ 借入金  
 生産性向上のための設備投資、ソフトウェア投資の資金として、借入金が約1億円増加しました。

## 【財務指標】

いずれも健全性を維持しています。

① 流動比率(流動資産/流動負債)

2022年3月	148.1%
2023年3月	150.0%
2024年3月	129.6%

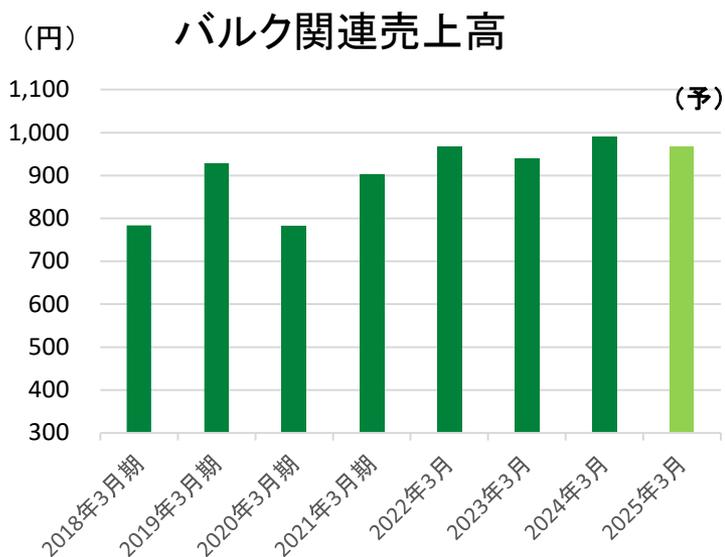
② 自己資本比率(純資産/総資産)

2022年3月	47.5%
2023年3月	50.1%
2024年3月	48.3%

# 5. 80期(2025年3月期)業績見通し

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想
売上高	6,157	6,200
営業利益	210	180
経常利益	208	160
当期純利益	176	130
配当予想	期末 2円	期末 2円

- 黄銅材の価格は、79期においては高値安定となりましたが、80期に入ると再び急騰の兆しを見せています。引き続き生産性向上と経費削減に努めたうえで、必要に応じ、価格転嫁を進める政府方針に則り適切に値上げを行っていく予定です。
- 2017年に始まったバルク附属機器の交換需要はピークアウトしましたが、79期に落ち込んだLPガス容器用弁が回復する見込みなので、売上高は全体として横ばいになる見込みです。



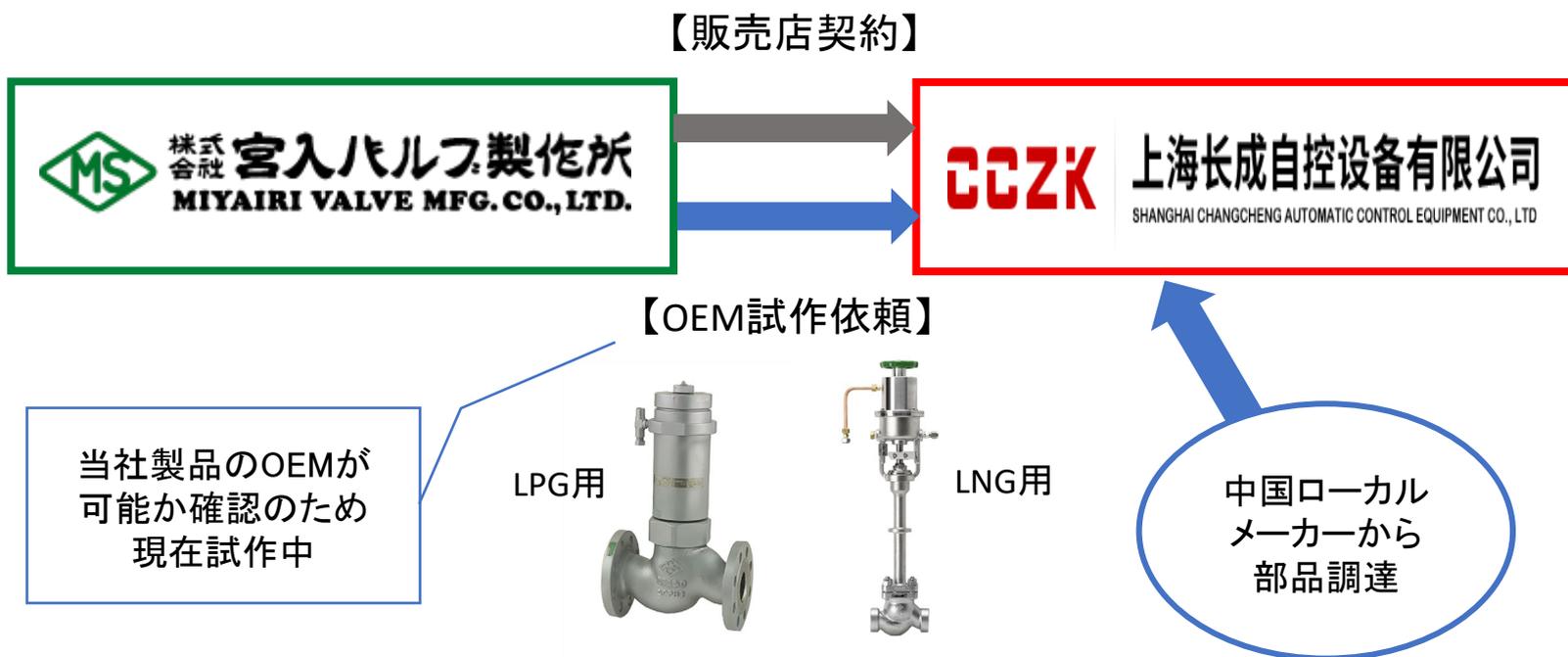
※ 日本伸銅切粉買取公示価格。当社の黄銅材仕入値は約110円増し。

# 6. 事業展開

	コア事業	拡大事業	新事業	提携事業
分野	LPG	LNG・水素	食品加工用機器 アグリ事業	産業ガス分野
79期取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国進出の下準備として、上海のバルブメーカーと販売店契約を締結しマーケティングを開始</li> <li>中国、台湾における部品調達やOEM先候補数社に試作等を指導しながら、提携先を探索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液体水素、LNG、液体窒素、アンモニア用バルブ(低温弁)の販売強化</li> <li>業務提携先の空気分離装置用バルブの試作を開始、完成した製品から受注開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工用機器の開発強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 醸造関連機器</li> <li>- サニタリーバルブ</li> </ul> </li> <li>製品開発のためにアグリ事業を確立                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- きくらげ販売拡大</li> <li>- ぶどう育成</li> <li>- ワイナリー建設</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体用クリーンバルブの完成</li> <li>Cavagnaの産業ガス容器用バルブのKHK検査受検業務受託</li> </ul>
80期実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>LPGその他製品の中国販売店による販売活動を支援する</li> <li>中国、台湾でのOEM生産に目途を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低温弁の品揃えを強化し、かつ原価低減を推進する</li> <li>空気分離装置用バルブの販売品目を拡大する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サニタリーバルブの品揃えを強化し、かつ原価低減を推進する</li> <li>ワイナリーを完成させ、試験醸造を開始する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業ガス設備用バルブの開発を強化する</li> <li>Cavagna製品を扱いながら、産業ガス容器用バルブのノウハウを蓄積し、OEMから独自開発への道を切り開く</li> </ul>

# 7. LPG事業等の中国進出

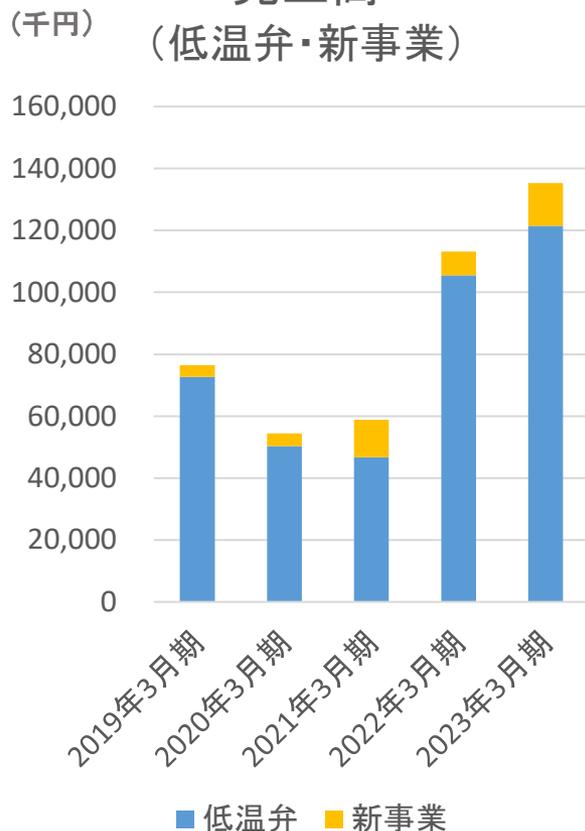
- 国際政治上の中国の立ち位置も影響して、経済情勢が低迷しているので、「農村部におけるLPG利用を促進する」という党中央の決定(2021年2月)が進まない状況です。
- したがって、当社が2年前より推進した「バルク貯槽附属機器をテコにした中国市場進出PJ」は予定通りには進んでおりませんが、その過程で知遇を得た現地のバルブメーカー(上海長成自動制御装置有限公司)と協業を模索しております。



# 8. 低温弁・新事業(サニタリー等)

## 79期売上例

売上高  
(低温弁・新事業)



### 【液体水素試験装置用弁】

(株)ジェック東理社様経由(株)IHIエアロスペース様



(株式会社IHIエアロスペース様提供)

### 【北極域研究船LNG燃料用弁】

エア・ウォーター北海道・産業ガス株式会社様



(提供: 海洋研究開発機構様)

### 【アンモニア燃料船A-tug用低温弁】

(LNG燃料船「魁」改造)



(エア・ウォーター北海道・産業ガス株式会社様)

### 【耐腐食性サニタリーバルブ】

キッコーマン食品株式会社様



### 【ミストノズル】

LPG充填工場



# 9. 新製品開発

- 新製品開発においては、特に、産業ガス分野(低温、高圧)と食品加工分野にチャレンジしています。

## 産業ガス

### 【空気分離装置用バルブ】



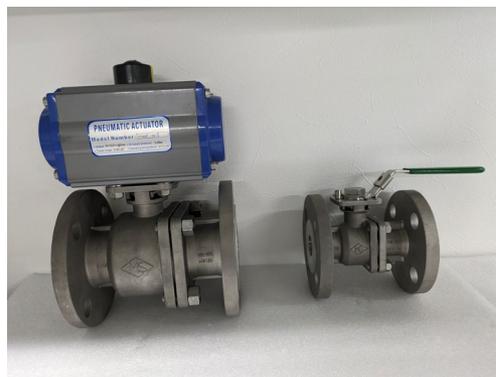
(低温試験)



- \* 大陽日酸株式会社様提供
- \* 昌栄機工株式会社様との共同事業



### 【ファインケミカル用ボール弁】



### 【半導体用クリーンバルブ】



## 食品加工

### 【サニタリーボール弁】



# 10. アグリ事業

## 【ぶどう畑の整備】

2021年7月



2023年5月



2024年5月



## 【ワイナリーの建設】

2024年5月



7月完成予定



## 【醸造計画】

- ・2024年9月買入れぶどうによる醸造開始
- ・2025～6年自社ぶどうを増やし2027年には全量自社栽培に切替
- ・年間20千本のワインを製造する

## 製品開発

(搾汁機)



(瓶詰機)



(ろ過機)



## 【きくらげ栽培】



好循環を  
目指す!



# 11. 事業戦略

- ・ あくまでも、LPガス供給機器の製造で培った要素技術を活かした事業展開を図っています。

